

ニュースレター 2018 年度第 1 号

日本音楽表現学会 2018 年 7 月 31 日発行

日本音楽表現学会第 16 回（折り鶴）大会特集

目	次
【巻頭言】二つの忘れがたい公演	後藤 丹 2
日本音楽表現学会第 16 回（折り鶴）大会報告	3
2018 年度総会報告	3
第 16 回折り鶴大会を終えて—	権藤 敦子 11
参加者の声：初参加・驚き・希望	岡野 真裕 12
初めての学会参加で発表	西角 優 12
初めて学会に参加して、しかも司会	中村 公俊 12
初めての実行委員として	長山 弘 17
大会スナップ集（グラビア）	13-16
新入会員紹介	17
日本音楽表現学会後援コンサート等情報	19
会員による新刊・CD 等リリース	20
事務局からの重要なお知らせとお願い	21
大会発表申込の〆切日変更について	23
日本音楽表現学会第 17 回（かきつばた）大会のご案内	24
2018 年度役員・委員等一覧	24
編集後記	24

日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail : music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費：5,000 円

振込先：郵便振込口座 01370=6=78225 日本音楽表現学会

二つの忘れがたい公演

後藤 丹（作曲／会長）

2013年3月24日、私はウィーン国立歌劇場でアルバン・ベルク作曲のオペラ《ヴォツェック》を観ていた。勤め先の大学からもらった半年間のサバティカル期間も終わりに近づき、あと数日で帰国するという時である。元来ベルク研究のためにウィーンに来たようなものだから、このオペラ鑑賞には気合いが入っていて、売り出しと同時に無理算段して最高のチケットを手に入れたのである。そこは2階の中央、円い仕切りの最前列真ん中、要するに昔であれば皇帝が座った場所で、覗きこむと下に双頭の鷲の紋章が見えるような席だった。演出は特に新しいものではなかったけれど、フランツ・ヴェルザー＝メスト指揮のオーケストラは意外なことに印象派さえ感じさせる柔らかい響きであった。ウィーン滞在のハイライトともいえるべき出来事で、会場で買ったポスターは帰国後、大切に額縁に入れて飾った。

さて、日本に帰って数ヶ月経ったある土曜日の午後、車に乗ってラジオをつけたら《ヴォツェック》をやっていた。聴いていくうちに、既視感（既聴感というべきか）が募り、終わりのアナウンスでびっくり。果たしてあの日の公演である。会場の雰囲気と共に彼の地での生活がよみがえり、これはウィーンが私にくれたプレゼントではないかと思われた。

実はもっとすごい経験がある。「折り鶴大会」の開会式の挨拶でも触れたけれど、いま少し詳しく語りたい。

今年の1月のことだ。大学のセンター試験の監督がやっと終わり、ほっとして車に乗りラジオをつけると、「N響ザ・レジェンド」という池辺晋一郎氏と壇ふみさんが司会する番組がちょうど始まるころだった。NHK交響楽団の過去の演奏を振り返る番組である。その日は往年の指揮者ロヴロ・フォン・マタチッチの特集で、懐かしい指揮者なので聴くことにした。

何か短い曲のあとベートーヴェンの交響曲第6番「田園」をやるという。その演奏データを聞いて私は驚愕し、もう少しで雪の道で運転を誤るところだった。「演奏は1967年〇月〇日、会場は新潟県民会館ホールです。」

それは忘れがたいコンサートだった。まさかあの50年以上前の録音が残っていて、たまたま車の運転中に聴くことになるとは……。

当時、私は新潟市の中学生であった。おそらく学校の音楽の先生に勧められてコンサートにきたのだろう。そのころ当地でオーケストラの演奏会は稀であった。そして、ここで聴いたマタチッチ・NHK交響楽団の「田園」によって私はオーケストラに魅せられてしまったのだ。言うなれば私が音楽の道に進むきっかけとなった演奏で、その感動については以前から人に語っていたほどだ。しかし、マタチッチの録音も多数あるだろうに、よりによって地方公演のものを選ぶとは。やはり名演だったのか。

録音の演奏は思っていたよりテンポが遅いように思ったが、私が最も感銘を受けた終楽章の盛り上がりは記憶の通りだった。演奏後の拍手も収録されていたけれど、その中には感激した少年の私が懸命に手を叩いているのも混じっているはずだ。

中学生の時の記憶に深く刻まれた演奏を、定年で教職を辞す間際に偶然に聴けるとは、何という巡り合わせか。人生は時折、粋な計らいを見せてくれる。



日本音楽表現学会第16回（折り鶴）大会報告

2018年度総会報告

日 時：2018年6月9日（土）15:30～16:40

場 所：広島文化学園大学 0501 大講義室

出席者数：開会に先立ち、出席者と委任状が数えられた。6月9日時点の正会員数580名に対し、総会出席者数81名、委任状提出者151名、合計232名であり、総会成立の要件を「正会員の5分の1以上の出席（委任状を含む）」（会則第14条）としたので、その要件を満たしていることから、本総会の成立が確認された。

なお、資料番号について財務関係に別紙資料番号が付せられていたために、この報告では混乱を避けて通し番号で表している。

1. 開会の辞：後藤丹会長より開会の挨拶があった。
2. 議長・記録選出：議長に佐々木正利会員、記録に澤田まゆみ会員を選出した。

3. 報告

1) 2017年度事業報告

豊田典子事務局長より、【資料1】に基づき報告があり、承認された。

【資料1】2017年度事業報告（2017年4月1日～2018年3月31日）

第15回（クロッシング）大会	2017.06.17-18	於：東京音楽大学
理事会	第1回 2017.06.17（土）10:00-12:00	於：東京音楽大学
	第2回 2017.12.13（土）10:00-17:00	於：京都市生涯学習センターアスニー
	第3回 2018.03.25（日）10:00-17:00	於：京都市生涯学習センターアスニー
	その他、電子媒体による持ち回り会議	
編集委員会	第1回 2017.06.17（土）10:00-12:00	於：東京音楽大学
	第2回 2017.07.23（日）10:00-16:30	於：京都市生涯学習センターアスニー
	その他、電子媒体による持ち回り会議	
ニューズレター発行	No.1 2017.07.31（月）	
	No.2 2017.11.30（木）	
	No.3 2018.03.31（土）	
選挙管理委員会	第1回 2017.06.18（日）	於：東京音楽大学
	第2回 2018.02.12（月・祝）	於：学会事務所（選挙広報発送）
	第3回 2018.03.24（土）	於：学会事務所（開票）
『音楽表現学』Vol.15 発行	2017.11.30（木）	
*後援	16件（昨年度24件、今年度目標値35件）	

2) 2018-19年度会長・理事選挙結果について

笹野恵理子選挙管理委員長より、【資料2】に基づき報告があり、承認された。

2017年度選挙管理委員会 委員長：笹野恵理子 委員：大澤 智恵 委員：樫下 達也

開票日：2018年3月24日（土）

場 所：日本音楽表現学会事務所

【資料2】2018-19年度会長・理事選挙結果

記		会長	後藤 丹
1. 有権者数	545名	理事	安藤 珠希
2. 投票者総数	281名(51.6%)	〃	小野 亮祐
3. 有効投票数	277票	〃	海津 幸子
4. 無効票	4票(期限超過:消印無効)	〃	加藤富美子
5. 有効投票数における各候補者の得票数		〃	澤田まゆみ
全候補者が有効投票数の95.31～88.45%の得票であったことを報告いたします。		〃	舟橋三十子
		〃	山名 敏之
		〃	渡会 純一

3) 第15回(クロッシング)大会決算報告

應和恵子財務局長より、【資料3】に基づき報告があり、承認された。

【資料3】第15回(クロッシング)大会決算

【収入】	費 目	金 額	備 考	予 算
	大会参加費	1,117,000	学会員:5,000円×184名=920,000円 当日会員:3,000円×51名(延べ数)=153,000円 学生会員:2,000円×22名(延べ数)=44,000円	780,000
	広告・ブース料	290,000		290,000
	『大会要項』販売	1,500	1部300円×5	0
	雑収入	3,000	アサヒカワダイクノカイ(誤入金)	0
	小 計	1,411,500		1,070,000
	一般会計から補助	0		180,285
	合 計	1,411,500		1,250,285

【支出】	費 目	金 額	備 考	予 算
	基調講演講師謝礼	100,000	講師:小鍛治邦隆氏	100,000
	レクチャーコンサート	0		0
	オープニング演奏経費	21,320	昼食等820円×26名分	18,200
	学生アルバイト謝金	134,500	1000円(時給)×134.5h	128,000
	アルバイト昼食代	17,560	17日820円×8名=6560円 18日1,000円×11名=11000円	19,000
	校舎施設使用料・機材レンタル料	150,000	空調費	150,000
	会議費	22,960	理事会・実行委員会・参事昼食代(1日目のみ)、他	30,000
	大会事業経費	220,822	事務局スタッフ宿泊費、交通費、参事前日宿泊費、大会本部経費	180,000
	ポロシャツ補充	0		0
	同・クリーニング代	16,448	32枚分	5,000
	『大会要項』等編集・印刷費・発送費	531,375	チラシ、ポスターを含む	531,375
	通信費	3,620		5,000
	交通費	73,710	表敬訪問他	73,710
	文具費	0		0
	雑費	1,000	茶菓等 登壇者用ペットボトル	10,000
	誤入金に対応	3,000		0
	小 計	1,296,315		1,250,285
	一般会計へ繰り入れ	115,185		0
	合 計	1,411,500		1,250,285

懇親会

【収入】	費 目	金 額	備 考	予 算
	参加費	565,000	5,000円×113名=565000	500,000
	合 計	565,000		500,000

【支出】	費 目	金 額	備 考	予 算
	懇親会費	555,401	100名で予約、当日申込分の飲み放題代+消費税	500,000
	アトラクション	0	実施せず	0
	一般会計へ繰り入れ	9,599		0
	合 計	565,000		500,000

4) 2017 年度会計報告・監査報告

海津幸子財務局担当理事より【資料4】に基づき報告があり、小畑郁男監事より、2017 年度会計処理が適正に行われており会計報告に問題がないとの監査報告があった。会員数の増加、雑費、大会補助費に関する説明がなされた上で、承認された。

【資料4】2017 年度会計報告・監査報告

【収入】	費 目	決 算	予 算	備 考
	学会年度会費	2,728,000	2,500,000	
	学会誌売上	37,344	80,000	
	利子	21	60	
	大会（クロッシング）からの繰り入れ（含、懇親会）	124,784	0	
	雑収入	30,000	0	
	小 計	2,920,149	2,580,060	
	前年度繰越	2,641,847	2,641,847	
	合 計	5,561,996	5,221,907	

【支出】	費 目	決 算	予 算	備 考	
	『音楽表現学』	印刷費等	787,896	600,000	含、査読謝礼・英文タイトル校閲
	ニューズレター	印刷費等	88,779	130,000	
	名簿	作成・印刷費	0	0	（偶数年度発行）
	理事会	会議費	46,240	40,000	
		交通費	403,504	350,000	
	編集委員会	会議費	22,930	20,000	
		交通費	159,350	300,000	
		査読・校閲謝礼	5,000	5,000	
	デザイン室		107,830	100,000	用紙、トナー、役務費：校正・HP更新等
	学会基金積立		300,000	300,000	
	『論文執筆のしおり』	印刷費	0	0	
	選挙管理委員会 （奇数年度）	会議費	0	10,000	
		交通費	9,380	40,000	
		印刷費	28,290	35,000	
		役務費：発送作業	3,920	5,000	
	事務局費	会議費	4,500	0	
		交通費	18,010	0	
		通信郵送料	293,370	320,000	
		事務用品費	191,308	150,000	
		役務費：発送作業	11,460	0	
	払込手数料		5,400	10,000	
	雑費		0	50,000	
	大会補助		0	180,285	
	予備費		0	100,000	
	小 計		2,487,167	2,745,285	
	次年度繰越金		3,074,829	2,476,622	
	合 計		5,561,996	5,221,907	

※滞納徴収分が含まれ、前年度までの既納入分は除かれている。すなわち、年度中に納入された年会費延べ人数分である。

学会基金

【収入】	費 目	金 額	備 考
	2016 年度繰越金	3,656,929	
	2017 年度学会基金	300,000	一般会計から（学会基金積立）
	『音楽表現学のフィールド2』	27,000	売り上げ
	利息	33	
	合 計	3,983,962	

【支出】	費 目	金 額	備 考
	『音楽表現学のフィールド2』販促経費	1,960	役務費（amazon 出店手続きを含む）
	振込手数料	216	
	次年度繰越金	3,981,786	
	合 計	3,983,962	

※滞納徴収分が含まれ、前年度までの既納入分は除かれている。すなわち、年度中に納入された年会費延べ人数分である。

以上の通り報告いたします。
財務

2018年6月5日

應和恵子 海津幸子

監査の結果、以上に間違いありません。

2018年6月8日

監査

渡会純 小畑郁男

5) 年会費納入状況について

(1) 2018年3月31日現在の年会費納入状況

豊田典子事務局長より、【資料5】について2018年3月31日現在の会員数を565名に訂正の上、承認された。

【資料5】年会費納入状況 (2018年3月31日現在)

会員数	未納状況
564名 (2018年3月31日)	2015年度から 18名
	2016年度未納 26名
	2017年度未納 37名

6) 「日本学術振興会賞」「育志賞」の推薦について

豊田典子事務局長より、「日本学術振興会賞」「育志賞」の推薦について、期日までに申し出がなかったため、2017年度は該当者がなかったことが報告された。

7) その他

なし

4. 協議

1) 2018年度事業計画について

豊田典子事務局長より【資料6】に基づき提案があり、微細な誤記の修正確認の上、原案どおり承認された。

【資料6】2018年度事業計画 (2018年4月1日～2019年3月31日)

第16回 (折り鶴) 大会	2018.06. 9-10 (土・日)	於：広島文化学園大学
理事会	第4回 (旧)	2018.06.08 (金) 16:00-17:00 於：広島文化学園大学
	第1回 (新)	2018.06.10 (日) 17:00-18:30 於：広島文化学園大学
	第2回	2018.11 末-12 初 於：京都市内
	第3回	2019.03 末 於：京都市内
	その他	電子媒体による持ち回り会議
編集委員会	第1回	2018.06.09 (土) 10:00-12:00 於：広島文化学園大学
	第2回	2018.07 中旬 於：京都市内
	その他	電子媒体による持ち回り会議
『音楽表現論文執筆のしおり 2018年度版』刊行		
	2018.04.30 (月)	
ニューズレター発行 No.1	2018.07.31 (火)	
	No.2	2018.11.30 (金)
	No.3	2019.03.31 (日)
『音楽表現学』Vol.16 発行	2018.11.30 (金)	
『会員名簿』発行	2018.11.30 (金)	
*後援 20件 (昨年度16件)		

2) 第16回(折り鶴)大会予算について

海津幸子財務局担当理事より、資料に基づき提案があり、費目の記載についての修正を行う事を条件に、【資料7】のように承認された。

【資料7】第16回(折り鶴)大会予算

【収入】	費 目	金 額	備 考	クロッシング 決算
	大会参加費	860,000	学会員：5,000円×155名＝775,000円 当日一般会員：3,000円×25名＝75,000円 当日学生会員：2,000円×5名＝10,000円	1,117,000
	広告・ブース料	270,000		290,000
	『大会要項』販売	0	1部300円	1,500
	雑収入(誤入金)	0		3,000
	小 計	1,130,000		1,411,500
	一般会計から補助	248,088		0
	合 計	1,378,088		1,411,500

【支出】	費 目	金 額	備 考	クロッシング 決算
	基調講演講師謝礼	0	講師：原田宏司氏講演料	100,000
	レクチャーコンサート	160,000		0
	オープニング演奏経費	8,000	謝礼	21,320
	学生アルバイト謝金・交通費補助	180,000	時給820円	134,500
	アルバイト昼食代	18,000		17,560
	校舎施設使用料	0	共催のため (クロッシングは冷房費)	150,000
	ピアノ調律料	20,000		0
	会議費	30,000	理事会・実行委員会・参事昼食代(1日目)他	22,960
	大会事業経費	250,000	事務局スタッフ宿泊費、交通費、参事前日宿泊費、大会本部経費	220,822
	ポロシャツ・クリーニング、腕章	17,000		16,448
	『大会要項』等編集・印刷費・発送費	600,000	チラシ、ポスターを含む	531,375
	通信費	5,000		3,620
	交通費	80,088	表敬訪問他	73,710
	文具費	5,000		0
	雑費	5,000	茶菓等	1,000
	小 計	1,378,088		1,293,315
	一般会計へ繰り入れ	0		118,185
	合 計	1,378,088		1,411,500

懇親会

【収入】	費 目	金 額	備 考	クロッシング決算
	参加費	550,000	5,500円×100＝550,000円	565,000
	合計	550,000		565,000

【支出】	費 目	金 額	備 考	クロッシング決算
	懇親会費	550,000	5,500円×100＝550,000	555,401
	一般会計へ繰り入れ	0		9,599
	合計	550,000		565,000

3) 2018年度予算について

海津幸子財務局担当理事より、【資料8】に基づき提案があり、微細な誤記の修正確認の上、承認された。学会基金については、預金利息等も含め今後毎年適切な報告がなされるよう、理事会にて検討することとなった。

【資料8】2018年度予算

【収入】	費 目	金 額	備 考	2017年度決算
	2018年度会費	2,900,000	5,000円×580名	2,728,000
	学会誌等売上	40,000	大学図書館等	37,344
	『論文執筆のしおり』	15,000	増刷分売上 300円×50部	0
	利子	20		21
	大会からの繰入	0		124,784
	雑収入	0		30,000
	小 計	2,955,020		2,920,149
	前年度繰越金	3,074,829		2,641,847
	合 計	6,029,849		5,561,996

【支出】	費 目	2018年度予算	備 考	2017年度決算
	『音楽表現学』 印刷費等	850,000	含、査読謝礼・英文タイトル校閲	787,896
	『音楽表現学』vol.1 印刷費等	100,000	復刻版(20部)	0
	ニューズレター No.1～No.3 印刷費等	140,000		88,779
	名簿(偶数年度発行) 作成・印刷費	220,000	含、役務費	0
	理事会 会議費	50,000		46,240
	理事会 交通費	500,000		403,504
	編集委員会 会議費	25,000		22,930
	編集委員会 交通費	200,000		159,350
	編集委員会 査読・校閲謝礼	20,000		5,000
	デザイン室 役務費	150,000	NL・学会誌・名簿、HP更新等	107,830
	学会基金積立	300,000		300,000
	『論文執筆のしおり』 増刷 印刷費	40,000		0
	選挙管理委員会(奇数年度) 会議費	0		0
	選挙管理委員会(奇数年度) 交通費	0		9,380
	選挙管理委員会(奇数年度) 印刷費	0		28,290
	選挙管理委員会(奇数年度) 役務費：発送作業	0		3,920
	事務局費 会議費	30,000		4,500
	事務局費 交通費	100,000		18,010
	事務局費 通信郵送料	350,000		293,370
	事務局費 事務用品費	200,000		191,308
	事務局費 役務費：発送作業	40,000		11,460
	払込手数料	10,000		5,400
	雑費	50,000		0
	大会補助	248,000		0
	予備費	100,000		0
	小 計	3,723,000		2,487,167
	次年度繰越金	2,306,849		3,074,829
	合 計	6,029,849		5,561,996

学会基金

【収入】	費 目	金 額	備 考
	2016年度繰越金	3,981,786	
	2017年度学会基金	300,000	一般会計より学会基金積立
	『音楽表現学のフィールド2』	30,000	売り上げ
	利息	35	
	合 計	4,311,821	

【支出】	費 目	金 額	備 考
	『音楽表現学』バックナンバー電子化	200,000	企画・調査費
	次年度繰越金	4,111,821	
	合 計	4,311,821	

4) 『音楽表現学』投稿規定の改正について

豊田典子事務局長より、【資料9】に基づき提案があり、若干の修正確認の上、承認された。

【資料9】『音楽表現学』 投稿規定

改 定	現 行
<p>2. 投稿者の資格 投稿者および共同投稿者は、<u>前年度末までに会員資格を取得し、当該機関誌発行年度までの年会費を納入した会員に限る。ただし、依頼原稿執筆者はこの限りでない。なお、筆頭投稿者となれるのは1件とする。</u></p> <p>3. 原稿の種別 原稿には以下の種別がある。</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p> <p>(4) <u>寄書 (Letter to the editor)：研究速報、討論、提案、学会に対する意見等</u></p> <p>(5) <u>批評：音楽作品や演奏についての検討、評価、意見等</u></p> <p>(6) <u>書評：音楽表現に関する印刷物についての検討、評価、意見等</u></p> <p>(7)</p> <p>(8)</p> <p>(9)</p> <p><u>原稿は投稿によるものとする。(5)～(9)の原稿は学会から委嘱することができる。</u></p> <p>5. 投稿要領 (2) 原稿の形式および分量。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図および表には必ず番号とタイトルをつける。なお、譜例、図版、図表については精細なデータを別添すること。縮小作業は印刷所が行うのでサイズに関係なくオリジナルのデータを提出すること。 ・ 楽譜の全曲掲載は原則として認めない。 <p>(3) 原稿は、<u>コピー3部</u>を提出し、それとは別にメールに添付する。Microsoft Wordでの提出が望ましい。譜例・図表などについては、それらに用いたソフト名とOSを明記すること</p> <p>附則 10. 2017年6月17日改正 11. 2018年6月9日改正</p>	<p>2. 投稿者の資格 投稿者および共同執筆者は、<u>機関誌発行年度までの年会費を納入した会員に限る。ただし、依頼原稿執筆者はこの限りでない。</u></p> <p>3. 原稿の種別 原稿には以下の種別がある。</p> <p>(1) 原著論文 (Original paper)：音楽表現（創造、再現、表現技法、知覚・認知、感性と能力の育成等）に関する研究論文で、学術研究としての形式を備え、独自の知見を示しているもの</p> <p>(2) 評論論文 (Review article)：音楽表現（創造、再現、表現技法、知覚・認知、感性と能力の育成等）に関する独自の見解を論理的に検証するもの</p> <p>(3) 研究報告 (Short report)：試験的報告、内外諸研究の追試的検討、研究資料の公表、新しい方法の提案等</p> <p>(4) <u>批評：音楽作品や演奏についての検討、評価、意見等</u></p> <p>(5) <u>書評：音楽表現に関する印刷物についての検討、評価、意見等</u></p> <p>(6) <u>寄書 (Letter to the editor)：研究速報、討論、提案、学会に対する意見等</u></p> <p>(7) 展望：今日的な問題に関して、今後の展望を記述したもの</p> <p>(8) 解説：特定の主題について、専門外の者にも分かりやすい解説等</p> <p>(9) その他、国際会議参加報告、研究所紹介等</p> <p>5. 投稿要領 (2) 原稿の形式および分量。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図および表には必ず番号とタイトルをつける。なお、譜例、図版、図表については精細なデータを別添すること。縮小作業は印刷所が行うのでサイズに関係なくオリジナルのデータを提出すること。<u>楽譜の全曲掲載は原則として認めない。</u> <p>(3) 原稿は、<u>コピー9部</u>を提出し、それとは別にメールに添付する。Microsoft Wordでの提出が望ましい。譜例・図表などについては、それらに用いたソフト名とOSを明記すること</p> <p>附則 10. 2017年6月17日改正</p>

5) 「成果発表・研究会関係細則」の改正について

豊田典子事務局より、【資料10】に基づき提案があり、原案どおり承認された。

【資料 10】『音楽表現学』 投稿規定

改 定	現 行
(4) 年次大会における研究発表は、基調講演、シンポジウム、パネル・ディスカッション等に関わる学会からの委嘱を除いて学会員によるものとする。新たに入会及び発表を希望する者は、前年の 12 月 15 日までに入会申し込みと学会費の納入を完了しなければならない。	(4) 年次大会における研究発表は、基調講演、シンポジウム、パネル・ディスカッション等に関わる学会からの委嘱を除いて学会員によるものとする。
(5) 年次大会における筆頭発表は、学会からの委嘱を除き、1 件とする。	
附則 3. 2018 年 6 月 9 日改正	附則 2. 2009 年 6 月 13 日改正

6) 大会研究発表数増加への対応について

小西潤子副会長より、会員数の増加により 40 分（発表・質疑応答含む）のタイムスケジュールを組むことが難しくなっているため、発表時間・場所の割り振りや、場合によってはポスターセッションの導入等、プログラム編成チーム（仮）新設の提案があり、承認された。

- ・チームは会長及び会長の指名による若干名
- ・すべての発表申込みを確認
- ・発表時間の割り当て作業
- ・会場の条件や発表申込み者数により、①適正な発表時間、②発表数、③ポスターセッションの導入等を検討
- ・学会事務局に会員からの意見を寄せていただき、理事会で検討する。

7) 「日本学術振興会賞」および「育志賞」の推薦に関する内規（案）について（新規）

藤原嘉文総務担当理事より、【資料 11】に基づき提案があり、原案どおり承認された。

【資料 11】 「日本学術振興会賞」および「育志賞」の推薦に関する内規

日本学術振興会賞	育 志 賞
1. 日本音楽表現学会は、機関長推薦枠の推薦権者として候補者を推薦することができる。	1. 日本音楽表現学会は、日本学術会議協力学術研究団体として年に 1 名を推薦することができる。
2. 本学会推薦条件の該当者で推薦を希望する者は、日本学術振興会ホームページにある日本学術振興会賞推薦要項を熟読の上、必要書類をそろえて学会事務局へ 2 月 28 日までに申し込むこと。	2. 本学会推薦条件の該当者で推薦を希望する者は、日本学術振興会ホームページにある日本学術振興会育志賞推薦要項を熟読の上、必要書類をそろえて学会事務局へ 4 月 30 日までに申し込むこと。
3. 推薦の可否は理事会で決定する。後日、追加書類の提出を求める場合がある。	3. 推薦の可否は理事会で決定する。後日、追加書類の提出を求める場合がある。
[推薦条件]	[推薦条件]
(1) 音楽表現学の分野における貢献度が著しく際立っており、『音楽表現学』または『音楽表現学のフィールド』に論文が掲載されていること	(1) 音楽表現学の分野における貢献度が著しく際立っており、『音楽表現学』に論文または研究報告が掲載されていること
(2) 推薦者のうち 1 名は学会員であること	(2) 推薦者のうち 1 名は学会員であること
(3) 当該年度までの年会費が納入されていること	(3) 当該年度までの年会費が納入されていること
[必要書類]	[必要書類]
(1) 申請フォーム（学会ホームページ内）	(1) 申請フォーム（学会ホームページ内）
(2) 推薦書（様式 2）（1 ページ目）	(2) 推薦書（様式 2）（1 ページ目）
(3) 業績調書（様式 4）	(3) 研究の概要等（様式 4）
(4) その他（参考 1）	
(5) 業績調書一覧（様式 4 別紙）	

8) 『音楽表現学』の電子化について

加藤富美子副会長より、かねてより懸案の『音楽表現学』の電子化について、「著作権ワーキンググループ」を中心に電子化にかかる経費や方法の調査を今年度行うことが承認された。

9) 会長諮問会議メンバーの委嘱について

後藤丹会長より、メンバーの委嘱について提案がなされ、承認された。

(継続) 安藤 政輝、佐々木 正利、杉江 淑子

(新規) 小西 潤子、豊田 典子

(退任) 安田 香

10) 監事の委嘱について

豊田典子事務局長より監事の委嘱について提案がなされ、承認された。

2018-2019 年度 應和 恵子、小川 有紀

11) デザイン室長の委嘱について

豊田典子事務局長よりデザイン室長の委嘱について提案がなされ、承認された。

(継続・再任) 2018-2019 年度 奥 忍

12) 年会費滞納による除名処分について

豊田典子事務局長より、会則に基づき以下の5名を会員名簿から削除することが提案され、承認された。

上羽 広明、北川 純子、董 芳勝、西脇 郁乃、藤範 登志美

13) 第17回大会開催期日と候補地と愛称について

豊田典子事務局長より、以下の説明がなされ、承認された。

期日：2019年6月15日(土)～16日(日)

会場：刈谷市総合文化センターアイリス(その後、会場を愛知教育大学に移すことになった。)

愛称：アイリス大会(会場移動に伴い、愛称を「かきつばた」に変更することになった。)

実行委員会 委員長：新山王政和

委員：國府 華子 他、p.24 のご案内をご覧ください。

14) その他

5. 閉会の辞

後藤会長より総会議事への協力に対する感謝が述べられ、閉会となった。

第16回「折り鶴」大会を終えて

「音楽はいかにヒロシマを伝えてきたか」そして「原爆の記憶と音楽」

折り鶴大会実行委員会事務局長 権藤 敦子

第16回(折り鶴)大会は、会員167名、非会員43名、計210名の参加者と、開催校7名、実行委員会企画出演者63名、スタッフ16名、合計300名近い方々のご参加、お力添えをいただき、6月9、10日の二日間の日程を無事終了しました。広島文化学園からはあらゆる側面でご支援をいただきました。14名の実行委員は終始気持ちよく確実な協力体制で運営にあたってくださいました。本部の方々をはじめ、皆様にご場をお借りして心より御礼申し上げます。

平和を象徴する折り鶴の姿を心に刻みながら、原田宏司実行委員長の長年にわたるお仕事、「ヒロシマと音楽」委員会の能登原由美委員長、光平有希事務局長の強力なサポートを軸として、皆様にご地で伝えたいことを聴いていただくことができました。私にとっては、思いがけない重病で倒れられた原田先生の病室に何度も押しかけては相談した、20年前の「平和教育の視点から音楽を考える(司会：加藤富美子氏)」の企画、13年前奥忍デザイン室長がかかわってくださった「Threnody(R. マリー・シェーファー曲)平和教育プロジェクト」を経た今回、生まれ育った広島で改めて音楽表現に深く思いを致す機会となりました。

参加者の声

初参加・驚き・希望

岡野 真裕 (身体運動科学)

本学会の大会には今回初めて参加した。要項やプログラムを見てまず感じたのは、内容の多彩さである。学会名から楽曲分析や作品論が中心だろうと勝手に想像していたが、メディアアートや実演、心理・生理、神経科学まであり驚いた。

個人的な話で恐縮だが、筆者の大きな関心は、「息が合う」「グルーヴ」「一体感」といった現象を、リズムや身体運動の相互作用から数理的に捉えたい、というものである。しかし実際の演奏は数理解析には複雑すぎ、比較的単純な実験（指タッピングなど）への抽象化を迫られる。つまり音楽性を重視するほど解析が難しくなり、解析しやすさを重視するほど音楽性が損なわれる。このバランスが非常に悩ましい。実験から演奏への示唆・着想を得ても、大幅に複雑になる実演でもそれらは有効だろうか、音楽家の身体を的確に表現できているだろうか、という点も悩みどころである。こうした悩みをどこで議論すればよいのやら、という点も。

本大会の発表内容や参加者の多様さに、こうした議論も包み込んでもらえそうな希望を感じた。音楽の発展に資する研究をし、面白がってもらえる成果を持ち込めるよう、一層の努力を重ねたいと改めて思った。

初めての学会参加で発表

西角 優 (音楽学)

今回の大会は、私にとって初めての学会参加です。研究発表までさせていただき、非常に濃い2日間を過ごさせていただきました。広島での開催ということで指導教員から発表の勧めを受けましたが、大学院に進学したばかりの私は学会というものすら具体的に分かっていないままに準備を進めてきました。当日まで大きな不安と緊張を抱えていましたが、初日のサロンや懇親会で皆様の温かさに触れ、落ち着いて2日目を迎えることができました。

特に印象に残っているのは、やはり研究発表です。

私が発表させていただいたのは、作曲家高田三郎のキリスト教宗教学作品に関する研究です。大学の卒業研究で進めたテーマですが、少々マニアックなためか、大学内ではあまり関心をもってもらえるものではありませんでした。しかし、この学会では私の研究に興味を持ってくださる方がいらっしや、「このテーマを追求してよかった」と嬉しく思いました。

発表には多くの皆様にお集まりいただき、温かいお言葉とアドバイスをいただいたので、続く研究への大きな原動力となりました。また、学会員の皆様の発表では大きな刺激を受けました。貴重な時間を経験させていただき、ありがとうございました。

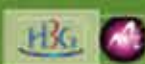
初めて学会に参加して、しかも司会！

中村 公俊 (ヴァイオリン)

普段、演奏や指導を中心に活動しているので、学会とは縁遠く、初めての学会参加でした。そのような状況で司会をお引受けしたので、一体何をすれば良いのかも分からないまま、とりあえず、発表される方のこれまでの研究や、発表内容を確認し、広島へ向かいました。

他の方の発表や司会を見学し、思っていたよりアットホームな雰囲気にと胸をなでおろしました。担当の分科会が始まると質問が出なかったらどうしよう…と、ドキドキしましたが、結果としては私が質問するまでもなく、時間が足りないくらいでした。今回は発表希望者が多く、時間に余裕がなかったと聞きましたが、発表時間と質問時間が同じくらいでも、良いのではないかと感じました。

日頃の演奏活動では、演奏に対する感想や指摘を貰うことが、少なくなってきました。学会では、研究発表に対する質問時間があることが、非常に刺激的でした。三人寄れば文殊の知恵と言いますが、研究発表という一方通行の状態ではなく、同じ分野の研究者が知恵を出し合い、双方向で話し合える質問時間の大切さを感じた大会でした。



日本音楽表現学会

第16回「折り鶴」大会

2018年6月9日(土)～10日(日)

東京国際文化芸術大学長寿キャンパス



【基調講演】

音楽はいかにヒロシマを
伝えてきたか

原田 家司



【レクチャーコンサート】

原爆の記憶と音楽

- I. 被災体験と音楽
- II. 原爆時と音楽
- III. 反戦詩と作曲家



企画・構成:能登原由美氏



実行委員会メンバー



新旧合同理事会

分科会 A



分科会 B



分科会 C



分科会 D



分科会 E



分科会 F



分科会 G



懇親会



サロンA~H



初めての大会実行委員として

長山 弘（音楽教育学）

日本音楽表現学会は、私にとって初めての学会です。入会のきっかけとなった深川のネム大会は、現在の音楽表現の領域で、どのような研究が行われているのかを知る機会となりました。そのときの懇親会では、多くの先生と交流でき、貴重な経験となったことを覚えています。

そして今回、折り鶴大会の実行委員として会場の機材設備を担当することとなりました。コンピュータや視聴覚機器の取り扱いにはある程度慣れていたものの、想定外の問題が発生しないだろうかと大変不安でした。しかしそんな不安感も、

大会実行委員の先生方とチームとして連携し、お互いに助け合いながら一緒に準備をすすめていく過程で生まれたあたたかい雰囲気のもと、次第に安心感へと変わっていきました。

今回、学会の大会運営がどのようなものかを実行委員の立場から実感できたこと、また、大会実行委員として多くの先生方とつながりが持てたこと、さらに、その先生方と一つのチームとして大会を運営することができたという経験は、私にとって大きな収穫となりました。このような、貴重な機会をいただいた日本音楽表現学会には、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

新入会員紹介

個人情報に付き削除しています。

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

見田 寛さん 第3回瑠瑠会コンサート
安田 香さん 日 時：2018年8月18日(土) 13:00開演(12:30開場)
会 場：クララザール(じゅうろく音楽堂)
〒500-8302 岐阜市本郷町1丁目28番地 問合せ 058-266-2552
料 金：入場無料
出 演 者：見田 寛、安田 香 他
主な曲目：ドビュッシー：《前奏曲集》より〈亜麻色の髪の乙女〉〈妖精はよい踊り子〉〈花火〉等

松浦 伸吾さん 【C3】Vol.1 / 【立方C】第一回演奏会
日 時：2018年9月6日(木) 19時開演(18時半開場)
会 場：豊中市立文化芸術センター 小ホール
料 金：前売3000円 当日3500円
主 催：【C3】project team
後 援：武庫川女子大学 大阪音楽大学 他
演奏者名：松浦伸吾 他4名
曲 目：ヴァルダペト《6つのアルメニア舞曲》より、ドビュッシー《前奏曲集第1巻》より〈西風の見たもの〉、松浦伸吾〈Trio for Flute, Guitar and Piano〉、他7曲
問合せ先：info@rippou-c.com / 050-5241-8429

深井 尚子さん 深井尚子・二宮英美歌ピアノデュオリサイタル
二宮 英美歌さん 日 時：2018年9月30日(日)
会 場：スタインウェイサロン東京 松尾ホール
料 金：4000円
主催後援：ブルンネン・ミュージック東京(主催)
曲 目：モーツァルト：アイネクライネナハトムジーク(ピアノ連弾版)
シューベルト：幻想曲D.940、ラヴェル：マ・メール・ロア 他

石原 慎司さん 第4回秋大祭特別オーケストラ音楽会
日 時：2018年10月13日(土) 12:00～12:50(時間は調整中)
会 場：秋田大学60周年記念ホール
主な内容：石原慎司の指揮で管弦楽曲や協奏曲を演奏します。
連絡先：秋大祭特別オーケストラ実行委員会 shudaisaisporchestra@yahoo.co.jp
参考URL：秋大祭特別オーケストラ <http://music.geocities.jp/shudaisaisporchestra/>

久次米祐江さん 田中聡作品展
日 時：2018年10月14日(日) 開演14:00(開場13:30)
会 場：六本木シンフォニーサロン
料 金：3500円
主 催：高梨令子 アールデュタン
後 援：NPO法人連弾ネット 宮地楽器 他
演奏者名：久次米祐江(ピアノ) 他
曲 目：茨木のりこ詩 歌曲〈わたしが1番きれいだったころ〉〈自分の感受性くらい〉
他、ピアノソロ：神託 他

藤原 嘉文さん 山梨から発信する 21 世紀の音楽創造 III ～山梨の作曲家による作品コンサート Part 3
山本 雅一さん 日 時：2018 年 10 月 20 日（土）14:00 開演
池山 洋子さん 会 場：キングスウェルホール（山梨県甲斐市）
上野 隼さん 料 金：入場無料
主 催：国立大学法人 山梨大学教育学部
後 援：山梨県、山梨県教育委員会、NHK 甲府放送局、山梨日日新聞・山梨放送 他
演奏者名：Pf. 藤原嘉文、山本雅一、池山洋子、他
曲 目：藤原嘉文《Metamorphosis IV for 2 pianos》、山本雅一《2 台のピアノのための
の新作》、上野隼《幽境に寄せる礼賛詩 for Fl. Vln. Pf.》、他全 8 作品
問合せ先：山梨大学教育学部芸術文化推進研究室 055-220-8250 yukitak@yamanashi.ac.jp

袴田 和泉さん 袴田和泉ピアノリサイタル
日 時：2018 年 10 月 31 日
会 場：やつしろハーモニーホール
料 金：一般 ¥2,500 学生 ¥1,500 ペア ¥4000
主催後援：クラシックの風 NPO 法人 You 倶楽部
曲 目：バッハ：パルティータ第 1 番 変ロ長調 BWV825、ベートヴェン：ピアノソナタ 第
14 番 Op.27-2、ドビュッシー：版画, ショパン：幻想ポロネーズ Op.61
問合せ先：You 倶楽部事務局（関口司法書士事務所内）Tel. 0965-34-1516 Fax. 0965-32-4851

喜多 宏丞さん 喜多宏丞ピアノリサイタル「山田耕筰とスクリャービン」
日 時：2018 年 12 月 22 日（土）14：30 開演
会 場：神戸芸術センター 芸術劇場
料 金：一般 2000 円 学生 1500 円
主な曲目：山田耕筰：スクリャービンに捧ぐる曲、妬の火、月光に棹さして、「荒城の月」
変奏曲、スクリャービン：左手のためのプレリュードとノクターン、ソナタ第 2 番、他
主 催：日本芸術センター
問合せ先：神戸芸術センター 078-241-7477 kobe@art-center.jp

日本音楽表現学会会員による新刊・CD 等リリース

小畑 郁男さん 「保育士、幼稚園、小学校教員養成に役立つ豊かな演奏表現のためのピアノ教本」
佐野 仁美さん 株式会社サーベル社、ISBN978-88371-772-9、定価 1800 円（+税）
田中 幹子さん

澤田まゆみさん CD「菅原明朗 器楽作品集」MTWD-99065
収 録 曲：白鳳之歌～ピアノのための～、三つの断章～無伴奏ヴァイオリンのための～、
無伴奏セロ・ソナタ、バラード～ヴァイオリンとピアノのための～、ブルゴー
ニュ～3つのピアノ小品～より
演 奏：澤田まゆみ（ピアノ）、他
発 売 日：2018 年 4 月 28 日
発 売 元：ミッテンヴァルト 04-7100-1768
定 価：¥3,000 + 税



事務局からの重要なお知らせとお願い

1. 年会費の納入について

(1) 年会費の納入期間：4月中にお願いします。

学会は皆様方の年会費で運営されています。期限内に納入がなければ、発表申込みや原稿投稿ができません。また、その年度の総会までに3年滞納された方は、総会での審議事項、年会費滞納による除籍対象者になります。無意識滞納にご注意いただきますと同時に、対策の一助として、納入後はただちに、「振替払込請求書兼受領証」(ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」)に、納入年度をメモの上、保存されることをお勧めいたします。年会費をまだお振り込みでない方はお急ぎください。

(2) 振込方法：同封のゆうちょ銀行青色の「払込取扱票」をご利用ください。

電信での送金は、内容確認が困難であり混乱の原因となります。学会では、財務局での入金確認作業を確実にするため、デザイン室で印字した「払込取扱票」の利用をお願いしております。何卒ご協力ください。

振込先：郵便局の振込み口座 01370-6-78225
名 義：日本音楽表現学会

* 海外在住等、国内でのお振込みが難しい方は、事務局へご相談ください。

(3) 領収書・請求書の発行：必要な方は事務局へ問い合わせを

領収書は原則として発行いたしません。「振替払込請求書兼受領証」(ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」)を領収書として保管ください。大学研究費での引き落とし等、請求書・領収書の必要な方は事務局へお問い合わせください。財務局へ取次ぎ、発行手続きをいたします。

(4) 年会費減免措置について：自然災害等の被災による減免措置の制度

学会では、地震や洪水等、自然災害の被災によって年会費納入が困難な会員の年会費を減免する制度があります。必要な方は、HPから以下の

書式をダウンロードし、申請ください。理事会に諮り、減免手続きをいたします。

「年会費減免願」書式 (20170321 版)：

被災による年会費減免願	
年 月 日	
日本音楽表現学会 会長 後藤 丹 様	
このたび、(〇〇地震)被災により、(〇〇〇〇年度)年会費の納入免除をお願いいたしたく、減免願を提出いたします。	
なお、(□□□□)年度分までの会費は納入済みですのでご確認をお願いいたします。	
氏 名：	_____
現在の連絡先：	_____
連絡先電話番号：	_____
e-mail アドレス：	_____
減免申請の理由 (具体的に納付困難の理由をお記しください。)	

2. 住所等、会員情報の変更：HPフォームにて速やかにお知らせを

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>

学会からの送付物は事務局本部で理事とスタッフが手作業で、お届けいただいた連絡先にお送りしています。しかしながら、転居先不明等で返却される封筒が少なからず存在します。そのたびに所属先や、時には入会時の「推薦者」に問い合わせ再送しています。このような手間と経費を削減するために、みなさまのご協力を切にお願い申し上げます。

3. 学会会員のサポート制度

(1) 機関誌『音楽表現学』への投稿

原稿の投稿には、会員資格と当該年度までの会費を完納していることが必要条件です。手続きには2～3週間かかります。その点ご確認ください。

『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。

投稿〆切は5月15日です。

(2) 大会での発表

本学会ならではの生の音楽表現を含めた研究発表の機会をご利用ください。応募〆切は、本年度から2月15日です。会員が500名を超えているために、エントリー締め切り間際のリマインドメールは送られません。申込み期日を明記してください。

4. 会員への情報公開

(1) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。

- ・研究ノート、随想など：図表等を含めて刷り上がり1頁以内。

(2) コンサート等の後援・協賛

本学会ホームページのリンクから〔コンサート等後援／協賛申請フォーム〕にて事務局へ申請してください。確認後、事務局より「後援受理書」をお送りしますので、チラシやプログラムに学会名を掲載ください。また、HP及びニュースレターにも案内を掲載させていただきます。

[コンサート等後援／協賛申請フォーム]

以下の項目それぞれ1行で39字以内を原則とする。

(文例) 以下のコンサートの後援をお願いします。 会員氏名： _____ 演奏会タイトル： _____ 日 時： _____ 会 場： _____ 料 金： _____ 出演者(会員)： _____ 主な曲目： _____ 問い合わせ先：ホール電話番号 _____ *個人の携帯番号・メールアドレスはセキュリティ上、 本会としてはHPには記載いたしません。
--

(3) 新刊案内・CD/DVD リリース

著者名(会員)、書名(ISBN)、出版社、価格(税込)、購入方法なども含めてお知らせください。ニュースレターとHPに掲載します。

(4) その他：隣接領域の研究会等情報などもお寄せください。

投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

5. 学会発刊の書籍の販売について

長らく絶版となっていたVol.1を復刻しました!

(1) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法：

メール等で事務局までお申し込みください。

以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

Vol.	会員価格(1部)	一般価格(1部)
1～3	2,500円+送料	3,000円+送料
4～14	3,000円+送料	3,500円+送料
15以降	2,500円+送料	3,000円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。

(2) 『音楽表現学のフィールド2』好評発売中

会員価格にて購入いただけます。

購入申込：メールで事務局までお申込み下さい。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

送金：『フィールド2』に専用振込票を同封します。

加入者：日本音楽表現学会

口 座：01370-6-78225

[購入申込書]

『音楽表現学のフィールド2』の購入を申し込みます。 氏 名： _____ 部 数： _____ 送 付 先： _____ 連絡用 E-mail： _____
--

6. 入会手続きについて

- ・入会申込みは随時受け付けます。入会申込書は以下のフォーム、またはHPからフォームをダウンロードしてお申し込みください。
- ・『音楽表現学』への投稿や大会での発表の申込みには本会会員であることが条件です。手続きには時間がかかります。次年度の大会発表希望者、『音楽表現学』投稿希望者は、2018年12月15日までに会員資格を取得してください。
- ・学会からの連絡(印刷物お届けなど)は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。
- ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

[入会申込書フォーム]

入 会 申 込 書	
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。	
年 月 日	
氏名 (ふりがな) :	_____
専門分野 :	_____
所 属 :	_____
自宅住所 :	〒 _____
連絡先 : (上記と異なる場合) 〒	_____
連絡先 Tel. :	_____
e-mail :	_____
推薦者名 (学会員・1名)	_____

7. 退会手続きについて

退会には以下の3点が必要です。

- ① 「退会届」をHPからダウンロードし、事務局に提出
 - ② その年度までの年会費完納
 - ③ 理事会の承認
- 「退会願」を提出しないで、年会費を先延ばし

にしていると「会則第8条」によって除名処分になります。仕事や私的な理由で残念ながら学会員を「これ以上続けることができない」と判断された場合には、必要な手続きを行ってください。

[退会願フォーム]

退 会 願	
年 月 日	
日本音楽表現学会	
会長 後藤 丹 様	
このたび、日本音楽表現学会を退会したいので「退会願」を提出いたします。	
なお、今年度分までの会費は納入済みですのでご確認をお願いいたします。	
氏 名 :	_____
連絡先 :	_____
連絡先 Tel. :	_____
e-mail :	_____
退会理由 :	_____

大会発表申込の〆切日変更について

大会発表が最近激増しています。これまでの体制と日程進行では賄えなくなってきました。こうした事態に対応すべく2018年度総会では「大会プログラム編成チーム」の立ち上げが決定しています。プログラミングと順調な大会運営のために、以下の項目について会員のみなさまのご協力をお願いいたします・

① 発表申込〆切日の変更について

従来よりも約2週間早く、2月15日とします。第17回(かきつばた)大会の発表申込み〆切は2019年2月15日(金)です。そのつもりで準備をお願いいたします。

② 入会→大会発表をご希望の方へ

大会発表ができるのは「会員」に限られています。会員資格をお持ちでない発表希望者、共同発表希望者には、まず入会していただくかなければなりません。

発表申込〆切日の変更に伴って発表希望者の会員資格取得期限を12月15日とします。入会希望者の「申込書」を受け取ってから、年会費納入の確認等、全ての入会手続きを完了するに

は日数を要します。

周りに入会→大会発表希望の知人がいらっしゃる方にはこのことをお伝えいただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

ちなみに

第17回(かきつばた)大会発表希望者の入会申込書提出の期限は2018年12月15日(土)です。



日本音楽表現学会第17回（かきつばた）大会のご案内

会 場：愛知教育大学（愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1）

会 期：2019年6月15日（土）～16日（日）

実行委員会

委員長：新山王政和（愛知教育大学）

事務局長：國府 華子（愛知教育大学）

実行委員：疇地 希美（同朋大学） 嶋田ひろみ（愛知教育大学） 高橋摩衣子（皇學館大學）

坪井眞里子（名古屋女子大学） 麓 洋介（愛知教育大学）

補佐：小野 志織（愛教大院生） 鈴木 杜萌（愛教大学部生）

大会運営委員：様子を見ながら依頼します。

実行委員会からのメッセージ

当初は刈谷市文化センターを予定しておりましたが、諸般の事情により愛知教育大学にて開催することになりました。大学行のバスが出ている最寄駅は「名古屋鉄道：知立駅」です。JR刈谷駅からは距離があり、バスの便もよくないのでご注意ください。なお、ホテルの手配はお早めをお願いします。

2018年度役員・委員等一覧

会 長：後藤 丹	著作権ワーキング：	会長諮問会議：安藤 政輝
副 会 長：加藤富美子 山名 敏之	代表 中村 滋延	小西 潤子
事 務 局 長：舟橋三十子	委員 近藤 晶子	佐々木正利
財 務 局 長：海津 幸子	酒井 勇也	杉江 淑子
理 事：小野 亮祐（事務局担当）	高橋 豊	豊田 典子
渡会 純一（財務局担当）	福本 康之	
安藤 珠希（総務担当）		参事：（事務局）似内裕美子
澤田まゆみ（総務担当）	選挙管理委員会：	松井 萌
編集委員会：	委員長 笹野恵理子	近藤 晶子
委員長 吉永 誠吾	委員 大澤 智恵	
副委員長 水戸 博道	檜下 達也	デザイン室長：奥 忍
委員 大竹 紀子 尾見 敦子		（スタッフ：松宮 和子）
上山 典子 齊藤 武	監事： 應和 恵子	
中 磯子 宮本賢二朗	小川 有紀	

編 集 後 記

「折り鶴大会」の余韻冷めやらぬ中、発生した大阪府北部地震、その後の西日本豪雨・水害。被災された会員の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また直接物理的な被害に遭われなかった皆さまにおかれましても、余震や避難・警報情報などによる心労はいかばかりだったか、とお察し申し上げます。当学会には被災による会費の減免制度がありますのでどうぞご活用ください。

今回のニューズレターは「折り鶴大会」特集です。今大会は、設立大会が開催された広島の地に戻り、「ヒロシマと音楽」のテーマでの基調講演・レクチャーコンサート、充実したサロン、お昼時間が取れないほどの多くの発表が行われました。実体験に勝るものはないと思いますが、この誌上で実行委員会事務局長をはじめ参加された方々の感想、数多くの写真などで少しでも様子をお伝えすることができれば幸いです。改めて運営に携わっていただきました多くの皆さまに厚く御礼申し上げます。

7月より新体制となりました。発表数の増加という嬉しい悲鳴に対する課題はありますが、これまで同様、音楽と笑顔にあふれる学会であり続けられるように、と思っております。
（安藤 珠希）